

現場訪問

溝が浅くなったタイヤで走行する危険性を実際に体験してもらう

●(株)葛城

(株)葛城(本社:奈良県御所市)は奈良県および三重県で自動車用品総合量販店を7店舗運営している企業である。同社の今年度の新入社員16名を対象にした安全運転研修が9月17日、鈴鹿サーキット交通教育センターで実施された。この研修のねらいを(株)葛城管理部部長の藤高靖久さんは次のように話す。

「私たちは各店舗で、お客様のカーライフをサポートするための商品やサービ

スを提供するとともに、安全に走っていただくための提案を行っています。タイヤに関するアドバイスもその1つです。すり減って溝が浅くなったタイヤで走り続けると、どのような危険があるのか、販売やピット作業を担当するスタッフがお客様にわかりやすく説明する必要があります。そのため、交通教育センターという安全な場所を利用して、実際にスタッフが摩耗したタイヤで走行し、クル

マの挙動の変化や危険性を体感してもらおうと考え、6年前から研修を始めました」。

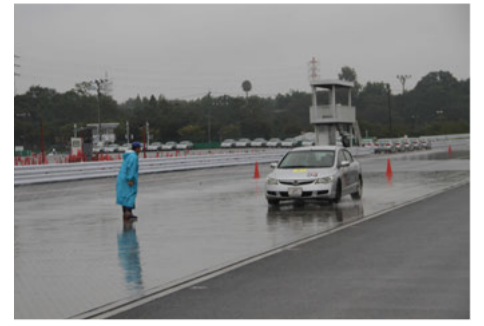
研修には、「前後輪とも正常なタイヤ」「前輪のみ溝が浅いタイヤ」「後輪のみ溝が浅いタイヤ」を装着した3種類のトレーニング車両が用意された。摩耗したタイヤは同社が用意したものである。



溝が浅くなったタイヤをトレーニング車両の前輪または後輪に装着

受講者は正しい運転姿勢を確認した後、午前中はスキッド走行。低μ路(圧雪路に相当するすべりやすい路面)に設定されたコースを走行する。挙動の違いを顕著にするため、コーナーの途中で、あえてアクセルを雑に踏んでもらう。「前輪のみ溝が浅いタイヤ」の車両は外側にふくらみやすくなり、「後輪のみ溝が浅いタイヤ」の車両は後輪が横滑りしやすくなることを体験する。

昼食をはさんで、午後はブレーキング。濡れた舗装路面と低μ路それぞれで、指定された位置から急制動を3種類のトレーニング車両で行う。「前後輪とも正常なタイヤ」では、40km/hの時、濡れた舗装路面では約6mで停止。低μ路に



低μ路でのブレーキング



2015年度の新入社員16名が受講

なると約40m。前輪または後輪に溝の浅いタイヤを装着している場合は、その距離がさらに伸びる。

インストラクターが「体験を通じて、これまで机上で学んだタイヤへの理解が深まったと思います。これを活かして、お客様に安全運転のためのアドバイスをしてください」と締めくくり、研修は終了した。

藤高さんは「この研修を受講すると、一歩踏み込んだ接客ができるようになるので、今後も継続していきたい」という。



低μ路に設定したコーナーを通過していくスキッド走行

溝が浅いタイヤの場合は、コーナーを曲がりにくくなることを体験



スキッド走行では後輪駆動の車両も使い、前輪駆動との挙動の違いなども体験した

TOPICS

●交通安全指導員教育プログラム勉強会

開発中の幼児・児童向け新教育プログラムに交通安全指導員の方々の意見を活かす



安全運転普及本部のスタッフが幼児・児童向けの新教育プログラムの位置づけや開発の方向性を説明

Hondaは8月、全国5会場(福島県、埼玉県、岐阜県、大阪府、熊本県)で「交通安全指導員教育プログラム勉強会(以下、勉強会)」(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部)を開催した。地域で活躍されている交通安全指導員に集まっていただき、アイデアや要望、意見をいただき、Hondaのプログラム開発につなげる目的である。5会場で140名が参加。今回は、開発が完了した高齢歩行者向けの教育プログラム(1~3面参照)の紹介と、開発中の幼児・児童向けの教育プログラムに対する討議の場として開催した。

昨年行われた「教材研究会」では、幼児・児童向けの教材として、参加した交

通安全指導員の方々から「あやとりい ひよこ編」の発展的なもの、平面的ではなく立体的なものを求める意見が多かった。そこで、Hondaは「たのしい!(体験を通じて 乗り物の動きをしっかりと確認することを 印象に残していただく)」をテーマに、5~6歳の幼児および小学校低学年の児童を対象とした新たな教育プログラムを検討。「あやとりい ひよこ編」で交通ルールを習得した子どものステップアップ・プログラムと位置づけ、危険を予測する能力を身につけてもらうことを目的とした。危険

予測の題材となる交通場面は、飛び出しを抑制させるためのシーンなどを検討中で、動画(一部のシーンは静止画も用意)を予定している。

勉強会では、こうした開発の方向性を前提として「子どもたちを集中させる工夫」「危険予測のシーン/見せ方」「危険予測のストーリー」「楽しく学習するための工夫」について、参加者一人ひとりが考えた後、グループに分かれて討議を行い、グループごとにまとめたアイデアを発表した。「交通場面は実写のほうがイメージしやすいが、いきなり実写では子どもが興味を持っていないので、『イラスト』→『実写に近いイラスト』→『実写』と段階を追って見せてはどうか」「大人が想像している以上に、小さな子ども

から見る社会は大きなものがたくさんあるので、幼児視点での見せ方を工夫してほしい」「道路の歩き方などだけでなく、安全なクルマの乗降車、駐車場での歩き方も伝えられる内容を盛り込んでほしい」など、多くのアイデアや要望が出された。

幼児・児童向けの新教育プログラムは、全国5会場で収集した意見を反映させ、今年度中の完成をめざしている。

※あやとりい= Honda が三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。幼児~小学校低学年対象の「あやとりい ひよこ編」、小学3~4年生対象の「あやとりい」、幼児~小学校高学年対象の「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者対象の「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしく としかあし りかいて いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/>



参加者が各自の考えをまとめた後、グループに分かれて討議を行い、新教育プログラムに対するアイデアや要望を発表